

カ行

若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
カアベ	カワベ	川辺, 川の近く
カアベヨ	カウベヨ	子供たちが買物で店に入る時の挨拶
カアラ	カワラ	瓦
カアリ	カワリ	変わり, 子供らが遊戯中, 一時休んだり, 止めたりする時(野球のタイムと同じ)
カガア	カカア	妻のこと, 母にも言う。何れも他人に対して
ガギガギ	ギザギザ	状態の形容
ガギタラ		頭髪を不平らに刈った状態の形容
カグネル	カクレル	隠れる
カグネッコ	カクレンボ	隠れんぼ
カゲッコロ	カケッコ	駆け足競争
カサピタ	カサブタ	傷などの跡が固まって剥がれるもの
カシキ	カシギ	炊ぎ, 炊事
カシャツパ	カシノハ	櫂の葉, 枯葉にも言う
カセエデ	イソイデ	稼ぐ時は仕事が速くなることから
カダエ	カタイ	固い, 儉約, けちんぼうにも
カダス	カタス	「片す」で片づけるの意。「自分でカダセ」
カッキル	カキキル	掻き切る, 切る
カックス	カキコワス	掻き壊す。「カックスナヨ」
カックラウ	クウ	クラウは食うの意。
カックラセル	ナグル	殴る。「カッ」は接頭語, 「クラセル」はクラワセルの意。「一発くらわせる」など
カックルゲェス	ヒックリカエス	ひっくり返す
カッコナス	ケナス	「コナス」は「ケナス」の訛り
カッコロガス	コロガス	転がす
カッコロブ	コロブ	転ぶ
カツツアバク	サク	裂く, 捌く, 割く
カッペガス	ハガス	剥がす。「ヘガス」は「ハガス」の訛り
ガドオ	ガード	「ガード」(英語)の訛り
ガマゲェル	ガマガエル	蝦蟇蛙, 「ひき」とも言う。
カマヘビ	カナヘビ	トカゲと混同される爬虫類
カピタオゴシ	カブタオゴシ	株田起こし, 「カピタオゴシ」とも
ガンチャ		あばた面の凸凹とそのように形の崩れたも
カンニンナ	カンニンシテクレ	「堪忍」と謝ると, 子供は「エエヨ」と答える

若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
キイ	キ	木
キタゲ	ツバキ	唾, 汚いものを見ると出るので, 「汚い気」と言い, それがキタナイケ⇒キタケとなったのではなかろうか。
キタガタゴエシ	ツクツクボウシ	セミ科の昆虫「寒蟬」。昔, 龍ヶ崎市の北方町(きたかたまち)の人が旅に出て病気になる, だんだん重くなって帰れなくなってしまった。そこで蟬になって「キタカタコイシ, キタカタコイシ」と鳴き鳴き帰ったという伝説が当地方にある。筑紫地方にも同じような話があり, それが広まってツクツクボウシと呼ばれるようになった。
キッタネえ	キタナイ	汚い。「キッタネえガラ, ウッチャツチャエ」
キット		「必ず」と「多分」とに使い分けられる。

ギテ	ギシュ	技手。「シュ」の発音が難しく「シ」となり、「技師」との区別がつかない。全国的にこのような傾向にある。
キドゴロネ	キタママネル?	着物を着たまま畳の上などにごろ寝すること。「キドゴロネエシテ、カゼエヒクド、ハヤグネロ」
キマリガワルエ	ハズカシイ	恥ずかしい、整わないので
キビシヨ	キュウス	陶磁器製の土瓶を中国では「キブシヨウ」というが、日本に伝わって「キビシヨ」になったもの。これに急須の字を当てたが、日本流に読んで「キュウス」となった。
ギンギョツパジ	ギバチ	義蜂。鯰によく似た魚、鯰は下あごが前に出ているが、義蜂は上あごが出ている。胸びれで刺されると激しく痛む。鯰のように大きくはならない。20cmくらい。
キンザシ	キリダシ	切り出し。「キンザシ持ってアブネえど。手えでも切ったらタエヘンだ。」

ク

若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
クウレル	コワレル	壊れる。年寄りはいったが、普通は「オックレル」という。
クウンダ	クウノダ	食うのだ。「ヨオック手え洗ってガラ、クウンダ死ぬ。ほかに「非常に疲れる」の意があるが、昭和の半ば過ぎから「疲れた」をクタバツタという者が出てきた。間違いではなからうが、ちょっと耳障りだ。
クタバル	シヌ	嫌だという時、「糞を食らえば諾」の略
クソクレえ	クソククラエ	クタバルの項の解説にある「クタバツタ」の原因かも。
クタブツタ	クタビレタ	タエ(イ)は接尾語。「忘れネえで持って来てクッタエ」
クッタエ	クレ	口で潰す。クツチャスに変わる。クイは口での意。「クツチャブスとニゲえど」
クツチャブス	クイツブス	瞑る。「鬼は目えクツチャブツテロ」
クツチャブル	ツブル	及ぶ。「富士山にクツツグ山はアンメえ」
クツツグ	オヨブ	沢山。ゴデント(東国訛)。「こんなにグデント貰ってスンマセン」
グデント	タクサン	垣根。「ドロボネゴメ、クネえ潜ってクンダナ」
クネ	カキネ	汲み替え。堀、小川などを堰き止めて水を汲み出し、魚を獲ること。
クミツケえ	クミカエ	関節。「クルリ外した(脱臼)のガ、エダガッペえ、フジイだな」
クルリ	カンセツ	呉れ、下さい。要求、希望、依頼とある。
クロ	クレ、クダサイ	来るのだよ。来い。
クンダヨ	クルノダヨ	飲食物を飲み込む。「釘クンノンチャツタ、タエヘンだ」
クンノム	ノミコム	

ケ

若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
ケえス	カエス	①返す、②帰す、③解す「シックルゲえス」、「早グけえす」、「ヒョッコをケえした」
ケえツタリイ	カツタルイ	だるい、ばかばかしい
ゲえツチヨ	キリギリス	キリギリス科の昆虫。鳴き声から
ゲえニ	ヨケイニ	余計に。「ゲえナ物持ッテグダネえド」
ゲえモネえ	ゲイモナイ	「芸もない」から「つまらない」に

ケエル	カエル	蛙。帰る。「ハア日暮ダカラ、ケエル」
ゲダ	ゲタ?	下駄
ケヅ、ケツピタ	シリ	臀。「ベタ」という語がある。一面に広がるといふ意。「ホオ(頬)ツペタ」の「ペタ」がそうではなかろうか。促音でペタになり、それを臀へ持ってきて「ケツペタ」、また訛って「ケツピタ」になった。茨城県北部では、「シツペダ」という地方がある。
ケツガル	ケツカル	在る、居るの卑語。「屎してケツカル」
ケックリ	シャックリ	横隔膜が痙攣したときに起こる。
ケットパス	ケトパス	蹴飛ばす。「ボール、ハヤグケットバセ」
ケツメド	コウモン	肛門。「メド」は穴。
ゲロツペえ	ヘド	食物などを吐く。またその物。
ゲンコ	?	太さ3cm長さ30cmくらいの木の棒の片方を削って尖らせたものを地面に突き立てて、相手のものを倒しこする子どもの遊び
ゲンコツ	ゲンコツ	拳骨。「ゲンコツ食ったら痛いだ」
ケント、ケンド	ケレド	けれども。「体はエガエケント、力なしなだ、オメえは」
ゲンナリ	グンナリ	しおれる、がっかりする
一ゲエ	一カイ	そうゲエ⇔そうカイ。「ゲエ」を付けると少し敬語になる。普通ならば「行くガ」を「行ぐゲエ」と言うと丁寧になる。「寒くはないか」⇔「寒ガネえゲエ」

コ

若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
コオタニ	コンナニ	「アアタニ」、「ソオタニ」は類語。「コオタニシツカリモラツチャツテ、どうもアリガトゴザンス」
コガ	オケ	桶の大きいもの。酒樽の空いたものを、味噌樽や沢庵漬けなどに利用するが、酒が4斗入っていたので、4斗コガという。4斗は72リットル。
コサ	コサ	木陰のために耕作に不利な田地。またはその木や草むら。(東日本でいう)
コサアメ	コサアメ	「コサ」からの雨。コサメ(小雨)と誤用。
コシテクロ	ウツテクレ	所有権を移転、すなわち「越して」から来た言葉と思われる。個人間の安易な売買。「カギ(柿)コシテクレツカ」
ゴザンス	ゴザイマス	
コジガレ	イッテシマエ	行ってしまえ。「ドコサでもコジガレ」
ゴジャ、ゴジャツペ	ワカラズヤ	分からず屋。数えたものが分からなくなる。「あれエ、エグズダツケエ、ゴジャツペニナツチャツタ」
コソツペえ	コソバユイ	ゴソゴソする。かゆい。滑らかの反対。
ゴド	ゴミ	やや大きめのゴミ。粗大ごみとはいかない。
コツペ	クチタツシャ	口達者。おませ。
コデランネえ	コタエラレナイ	堪えられない。「甘くて、甘くてコデランネえ」、「嬉しくてコデランネえ」
コナンネえ	コナレナイ	食べたものが良く消化しないことから、やりきれない気持ちの意。「コナス」は事をやり通すの意。
	カナワナイ	「手に負えぬ」とも考えられる。8杯目の蕎麦を出されて「ハアコナンネえ」。「ハア」は「もう」の意。

コメリ	<u>コメイリ</u>	米煎り。春、稲の種蒔きの後、余った種粃のもみ殻を剥いで、「焙烙(ほうろく)」で煎って玉砂糖を煮溶かしてまぶしたもの。
コロ	<u>コ</u>	家畜などの仔。「牛のコロ」、「犬ッコロ」
ゴロッコ	<u>オタマジャクシ</u>	蛙の子。
コワエ		疲れた感じ。関西方面ではシンドイと言う。北海道方面でもコワエという地方がある。
コンニャ	<u>コンヤ</u>	今夜。夕食に蒟蒻(こんにやく)が出ると、「これ明日ンなってガラ、カネエデ、 <u>コンニャクウ</u> ンダド」などと、洒落を言ったりする。
コークソ	<u>ヨークソ</u>	石炭を乾留した残滓で燃料になる。火力が強い燃料。東国訛